



I'ROM GROUP



第24期報告書

2020年4月1日 ▶ 2021年3月31日

トップメッセージ

変革と革新による模倣困難な優位性を確立し グループのさらなる発展に向けて飛躍に挑み続けます

平素はひとかたならぬご支援とご高配を賜り、厚くお礼申し上げます。新型コロナウイルスにより影響を受けられた皆様にご心よりお見舞い申し上げます。

その新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の流行は依然として収束せず、日々のくらしや経済活動に大きな影響を及ぼしています。当社グループは、明日への希望をつなぐ医療を目指す企業として、新型コロナウイルスに対する新規ワクチンの開発を推進するとともに、先端医療技術を応用した新たな製品の研究開発に取り組むなど、より多くの方が、より身近に最先端の技術を利用することができる、安心・安全で健やかな未来の実現を目指して各事業を推進してまいります。

グローバル展開を進めているCRO事業では、オーストラリアの臨床試験実施施設における受託が拡大し、海外事業が本格化しております。また、国内CRO事業および先端医療事業が連携

して推進している治験国内管理人（ICCC：In country Clinical Care-taker）サービスにおいて、実施中の再生医療等製品の臨床試験の目標症例の登録を完了するなど、日本における再生医療の実現に向けた開発支援を推進しています。

さらに、先端医療事業において、iPS細胞培養上清液を化粧品原料として使用した「iPSスーパーネイタントアプリケーション®」の販売を開始しました。

2022年3月期においては、変革と革新による模倣困難な優位性を確立し、アイロムグループのさらなる発展を実現してまいります。

今後とも皆様のご支援、ご協力を心よりお願い申し上げます。

代表取締役社長 森 豊隆

● 企業理念

「明日への希望をつなぐ医療を目指して進み続ける」

● 中長期的な経営方針

「変革と革新」・「人材教育の徹底」により、
企業価値の向上を目指す

● 2022年3月期連結業績予想

売上高	15,000百万円
営業利益	1,500百万円
経常利益	1,500百万円
親会社株主に帰属する 当期純利益	1,100百万円

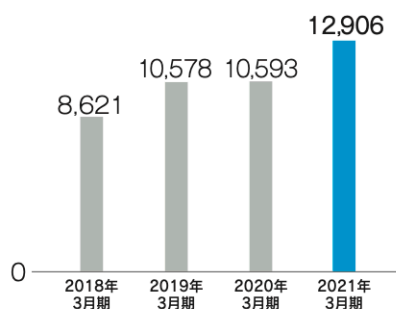
決算ハイライト



- ✔ CRO事業、メディカルサポート事業の伸張により、売上高は前期比21.8%増
- ✔ 各事業における収益力強化の推進により全事業が二期連続黒字
- ✔ 剰余金の配当を実施[中間:普通配当20円、期末:普通配当20円の計40円(配当性向35%)]

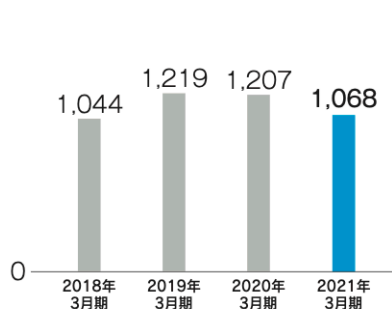
連結売上高

(単位:百万円)



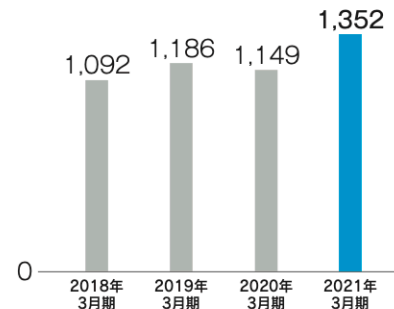
連結営業利益

(単位:百万円)



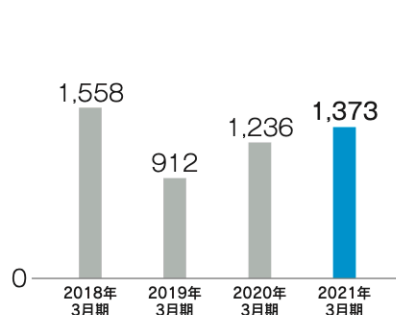
連結経常利益

(単位:百万円)



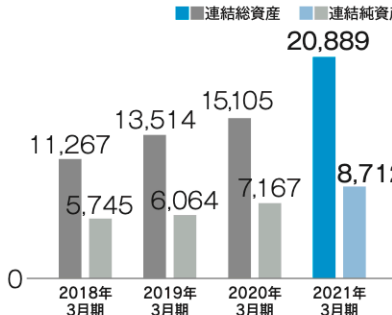
親会社株主に帰属する当期純利益

(単位:百万円)



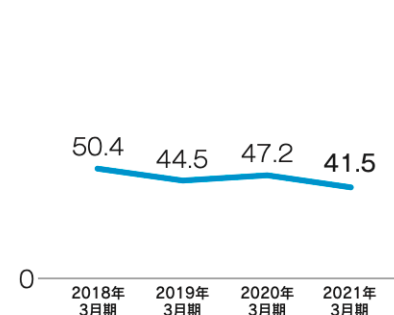
連結総資産/連結純資産

(単位:百万円)



自己資本比率

(単位:%)



セグメント別の状況

SMO事業

46.5%

売上高 6,005百万円

営業利益 1,986百万円

- がんセンターや大学病院等の基幹病院との提携が引き続き拡大
- QMS(品質マネジメントシステム)によるグローバルスタンダードに準じた高品質な治験支援を推進

先端医療事業

8.2%

売上高 1,061百万円

営業利益 11百万円

- 新型コロナウイルスワクチン開発において新製造施設建設や製造販売業許可取得を推進
- iPS細胞培養上清液を化粧品原料に使用したオリジナルブランド化粧品の販売を開始

CRO事業

24.9%

売上高 3,216百万円

営業利益 86百万円

- オーストラリアの臨床試験実施施設の受託拡大により海外事業が伸張し、セグメント売上高28.9%増
- 国内においても統計解析分野の強みを活かし、アカデミアを中心に新規臨床試験の受託が拡大

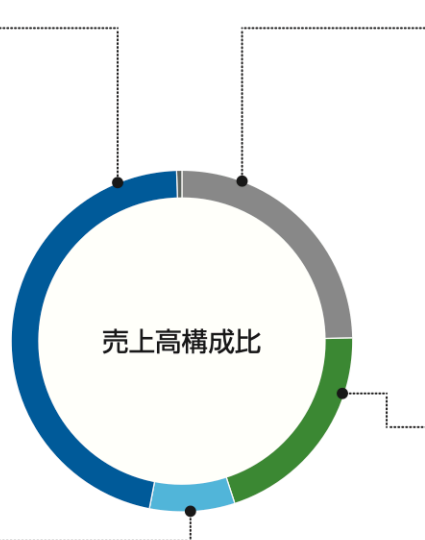
メディカルサポート事業

20.2%

売上高 2,604百万円

営業利益 321百万円

- クリニックモール事業が堅調に推移
- 販売用不動産の売却による売上を計上





SMO事業

SMO(Site Management Organization：治験施設支援機関)は、医療機関から委託を受け、関連法規に基づき適正かつ円滑な臨床試験が迅速に実施できるよう様々な業務を支援しています。国内SMOのバイオニアとして、アンメットメディカルニーズの高いがんや難治性疾患の臨床試験の増加や多様化する臨床試験の手法など、医薬品開発を取り巻く環境の変化に対応した支援を行っています。

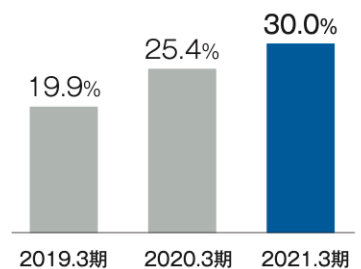


成長戦略

人材教育の徹底により、多様化する医薬品開発に対応した グローバルスタンダードに準じた高品質なサービスの提供を推進します

医薬品開発ニーズの高いがんや難治性疾患の臨床試験が引き続き増加しており、がんセンター等の基幹病院との提携を拡大し、支援実績が伸張しています。国内法のガイダンスが改正されるとともに国際共同治験の増加により複雑化かつ高度化する臨床試験の手順に対応するため、グループSMO各社の業務プロセスの一層の標準化・効率化に取り組み、QMS(Quality Management System：品質マネジメントシステム)の有効性の向上によりグローバルスタンダードに準じた高品質な支援体制の構築を推進しています。また、専門性の高い疾患・領域に対応可能なスペシャリストの育成やクリニックから基幹病院まで様々な環境で支援可能なマルチスタイルなCRCの育成に取り組んでいます。

● 基幹病院の売上構成比

2022年3月期の
取り組み

- 開発ニーズに合わせた医療機関との提携強化による臨床試験の受託の拡大
- 継続した人材教育体制の強化によるスペシャリスト、マルチスタイルCRCの育成の推進



CRO事業

CRO(Contract Research Organization：開発業務受託機関)は、医薬品・医療機器・再生医療等製品の治験を含む臨床研究等に関わる製薬企業やアカデミア等の業務を代行・支援する受託機関です。当社グループのCRO事業では、国内およびオーストラリアに保有する臨床試験実施施設における早期段階の医薬品開発支援およびアカデミアを中心とした医師主導治験や臨床研究の支援ならびに先端医療事業と連携した先端医療開発の支援を行っています。



成長戦略

海外CRO事業の本格的拡大および国内臨床試験実施施設との 連携強化により新しいCROのポジションの構築を推進します

オーストラリアにて保有する臨床試験実施施設において、欧米やアジアの製薬企業からの受託が拡大し、海外CRO事業の本格化が進んでおります。日本にて保有する臨床試験実施施設との連携による1プロトコール2サイト(1つの臨床試験を日・豪で実施することにより日本人および白人の治験データを取得することが可能)の実施体制を構築することで、国内外の製薬企業からの受託拡大に取り組めます。また、国内における開発業務受託においては、(株)IDファーマが治験国内管理人(ICCC)を務める再生医療等製品の治験の目標症例数登録を完了するなど、日本における再生医療等製品の実用化に向けた開発の支援を推進しています。

2022年3月期の
取り組み

- 日本・オーストラリアの連携による新たな臨床試験実施体制の構築
- アカデミア・バイオベンチャー等を中心とした先端医療開発業務の受託の拡大

するためのあらゆるプロセスに寄与し、「明日への希望をつなぐ医療」を目指し進み続けています。



先端医療事業

先端医療事業を推進する㈱IDファーマでは、遺伝子治療や再生医療等の実用化に向けて、医薬品や医療技術等の研究・開発や細胞バンク事業等に取り組んでいます。医薬品開発においてはベクター技術を用いた遺伝子治療製剤やワクチン等の開発・研究を推進しています。また、先端医療技術を化粧品等に応用した新製品の研究・開発やOEM(Original Equipment Manufacturing：他社ブランド製品の受託製造)を行っています。



成長戦略

先端医療の実現に向けた臨床開発の促進と製造販売体制の構築 および先端医療技術応用製品の開発を推進します

基盤技術であるセンダイウイルス(SeV)ベクターを用いた新型コロナウイルスのワクチンの開発を推進しており、投与方法を経鼻投与に決定しました。経鼻投与により、粘膜免疫^(※1)および全身免疫^(※2)の両方の誘導が期待され、2段階の免疫により既存の注射ワクチンにはない有用性が期待できる次世代ワクチンを目指して開発を進めています。また、ワクチンの新製造施設の建設や医薬品・医療機器の製造販売業許可を取得し、ワクチンの安定供給に向けた体制整備にも取り組んでいます。さらに、iPS細胞培養上清液を化粧品原料として使用した「iPSスーパーネイタントアプリケーション[®]」を開発し、販売を開始しました。

※1.粘膜免疫：IgA抗体によりウイルスの主要な侵入経路である鼻咽頭で感染を防御し、感染そのものを予防する効果が期待できます。また、初期感染者や無症状感染者のウイルス排出を低減することで、他者への感染拡大を抑える効果が期待できます。

※2.全身免疫：IgG抗体および細胞傷害性T細胞により粘膜免疫を突破し体内に侵入したウイルスが、細胞に感染するのを防いだり、ウイルスに感染した細胞を排除することで発症予防や重症化予防の効果が期待できます。

● 新型コロナウイルスワクチン開発状況

①投与方法の決定	②新製造施設建設の決定	③製造販売業許可の取得
<ul style="list-style-type: none">・経鼻投与ワクチン・投与デバイス(医療機器)の選定も進行中	<ul style="list-style-type: none">・ワクチン生産体制強化のための新製造施設の建設を推進中・竣工予定：2021年12月	<ul style="list-style-type: none">・第一種医薬品製造販売業許可を取得・第一種医療機器製造販売業許可を取得

2022年3月期の
取り組み

- ワクチンおよび遺伝子治療製剤の開発促進およびライセンス契約の推進
- 先端医療技術を応用した製品の研究開発の推進



メディカルサポート事業

メディカルサポート事業では、開発事業者や不動産会社などと連携して、駅からのアクセスや地域の医療需要など、様々な条件を満たすクリニックモールを開設しています。また、開設後の運営管理にも力を入れており、クリニックモールでの開業を検討する医師の開業支援を手がけるとともに、開業後の医療機関に臨床試験を紹介するなど、その経営を多角的に支援しています。



成長戦略

クリニックモールの運営による安定収益の確保および グループ各社の施設整備支援による各事業の推進をサポートします

メディカルサポート事業においては、引き続きクリニックモール等の運営により安定した収益の確保に努めます。また、臨床試験実施施設の整備や開業支援による臨床試験実施施設の確保、先端医療事業におけるワクチン製造施設の建設支援などにより、グループ各社の事業の推進・拡大をサポートします。



東京アสบクリニック(東京都中央区京橋、2020年10月開院)

2022年3月期の
取り組み

- 医療の進化と時代の変化に合わせた施設運営の推進
- 施設整備の支援によるグループ各社の事業推進をサポート



先端医療技術を応用した製品の研究開発

当社グループは、先端医療技術を健康や美容に応用することにより、より多くの方が、より身近に最先端の技術を利用することができるよう新しい製品の研究開発を進めています。

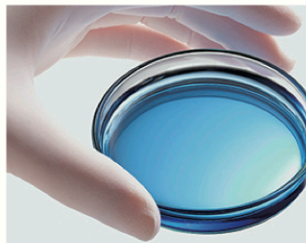
この度、再生医療への応用が期待されるiPS細胞にかかわる技術と、化粧品の製造技術を融合し、当社グループオリジナルブランド「**ICHIKA™**」から、iPS細胞培養上清液を原料に使用した新しい化粧品「**iPSスーパーネイタントアプリケーション®**」を開発することに成功しました。

当社グループでは、これからも先端医療技術を応用した様々な製品の研究開発を推進し、最先端技術を皆様にご提供できるよう取り組んでまいります。

ポイント① iPS細胞培養上清液

iPS細胞は、特定の遺伝子を細胞内に入れ培養することで、様々な組織や臓器の細胞に分化することができ、無限に増殖する能力を持った特別な人工の幹細胞です。一般的な幹細胞コスメの元となっている体性幹細胞とは全く違う次元の増殖能力を持ちます。このiPS細胞を培養した際に得られるのがiPS細胞培養上清液です。

ヒトiPS細胞の培養上清液は、肌の新陳代謝に必要な不可欠な栄養、サイトカインや成長因子やエクソソームを豊富に含み、時を戻したかのような潤い・ハリ・弾力を与えます。



ポイント② OEMサービス

OEM(受託製造)とは、Original Equipment Manufacturingの略称で、顧客のオリジナルブランドとして販売される製品を、委託を受けたOEM会社が企画・開発・製造するサービスです。当社グループでは、オリジナル原料であるiPS細胞培養上清液を用いた製品をはじめとして、基礎化粧品やヘアケア・ボディケア、アロマ製品など様々な用途の製品を提供することができます。

特殊材料を原料化する技術と、先端医療技術の2つの技術の融合により実現した、当社グループならではのサービスです。



「ICHIKA™」商品のご紹介

詳細はこちらからご覧ください▶<https://www.iceresort.jp/>



ICHIKA® スーパーネイタントアプリケーション

CONCEPT

かがやく素肌のために、新しい選択。

化粧品でも薬でも美容医療でもない、新しいモノを、イチから創造する「ICHIKA™」。ICHIKA™は再生医療分野の、最先端のバイオ技術で作製した、ヒトiPS細胞の培養上清液を配合した、世界初、日本発の高級コスメブランドです。

● iPSスーパーネイタントアプリケーション®Premium



写真左から

iPSブースター

内容量：40ml

iPS細胞培養上清液：5%/10%/20%配合

iPS美容クリーム

内容量：40g

iPS細胞培養上清液：5%/10%/20%配合

● iPSスーパーネイタントアプリケーション®



写真左から

iPSブースター

内容量：30ml

iPS細胞培養上清液：3%配合

iPS美容クリーム

内容量：30g

iPS細胞培養上清液：1%配合

● 除菌・保湿シリーズ



除菌・保湿スプレー

アルコール濃度：77vol%

会社の状況 (2021年3月31日現在)

会社概要

会社名	株式会社アイロムグループ
設立年月日	1997年(平成9年)4月9日
資本金	3,865百万円
本社所在地	〒102-0071 東京都千代田区富士見2-10-2 飯田橋グラン・ブルーム
連結従業員数	921人 (臨時従業員を含む)
連結子会社	株式会社アイロム 株式会社アイロムEC 株式会社アイクロス CMAX Clinical Research Pty Ltd 株式会社IDファーマ 株式会社アイロムPM (他16社)

経営体制

(2021年6月28日現在)

代表取締役	森 豊隆	取締役	小島 修一
取締役	渡辺 潔	社外取締役	前田 豊司
取締役	犬飼 広明		
取締役	朱 亜峰	監査等委員	
取締役	原 寿哉	取締役	桑原 秀次
取締役	松島 正明	社外取締役	佐々木秀次
取締役	深瀬 広幸	社外取締役	高橋 壮志

株主メモ

事業年度	4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	毎年6月
基準日	3月31日
剰余金の配当基準日	3月31日 (中間配当を行う場合は9月30日)
株主名簿管理人および特別口座の口座管理機関	〒103-8670 東京都中央区八重洲一丁目2番1号 みずほ信託銀行株式会社
郵便物送付先	〒168-8507 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 みずほ信託銀行株式会社 証券代行部
電話照会先	0120-288-324 (フリーダイヤル)
公告方法	電子公告により行います。 http://www.iromgroup.co.jp/ ただし、やむを得ない事由により電子公告ができない場合は、日本経済新聞に掲載いたします。

株式の状況

発行可能株式総数	37,281,680株
発行済株式の総数	12,285,965株
株主数	14,408名

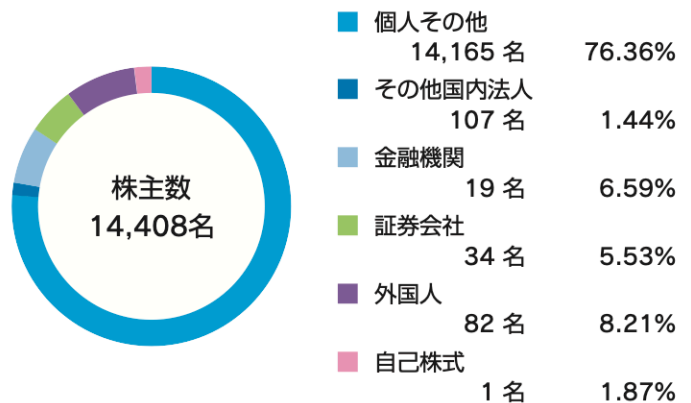
大株主

株主名	持株数(株)	持株比率(%)
森 豊隆	4,754,250	39.43
森 利恵	825,000	6.84
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	320,900	2.66
松井証券株式会社	105,500	0.88
株式会社日本カストディ銀行(信託口5)	103,900	0.86
東海東京証券株式会社	101,800	0.84
株式会社SBI証券	99,284	0.82
櫻井 裕子	98,000	0.81
株式会社日本カストディ銀行(信託口6)	93,300	0.77
渡邊 定雄	83,000	0.69

(注) 持株比率は、自己株式(229,795株)を控除して計算しております。

所有者別株式分布

※比率は、各株主が所有する株式数の割合です。



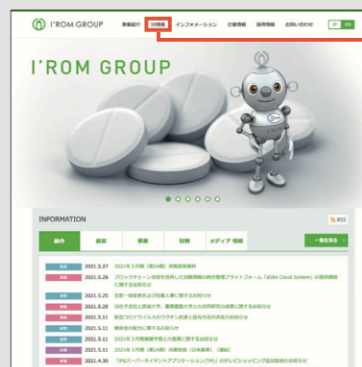
ホームページのご案内

当社のホームページでは、各事業のより詳しい内容や当社の最新の情報を掲載しています。また、IR情報のページでは、財務ハイライトや開示書類をご確認いただけますので、是非一度ご覧ください。

<https://www.iromgroup.co.jp/>

アイロムグループ

検索



● 当社ホームページ



● IR情報

株式会社アイロムグループ

〒102-0071 東京都千代田区富士見2-10-2

<https://www.iromgroup.co.jp/>

